

# 「店頭FX業者の決済リスクへの対応に関する有識者検討会」報告書の概要(平成30年6月13日)

## 問題意識

- 店頭FX取引市場については、リーマン・ショック以降の国際的な金融規制の対象ではないものの、年間取引規模が近年5,000兆円程度まで拡大
- 店頭FX業者の決済リスク管理を不十分なままにしておけば、外国為替市場や金融システムにも影響を及ぼし、システミックリスクに繋がる可能性

## 店頭FX業者の決済リスク管理の強化に向けた対応策

### ◆ 自己資本・ストレステストの拡充

- ストレステストの厳格化等
  - 顧客未収金及びカバー取引先破綻リスクについて、一日終了時点の建玉残高に基づく算出から日中最大の建玉残高を勘案した算出に変更
  - 顧客未収金について、控除する証拠金を実預託証拠金から契約上必要な証拠金に変更
  - カバー取引先破綻リスクについて、G-SIFIsのリスクも適正に勘案
  - 実施頻度を年1回から毎日に増加 等
- ストレステストの結果への対応
  - 自己資本が十分でない業者について、当局が自己資本の積増し又は証拠金率の引上げ(レバレッジ倍率の引下げ)等を通じたリスク量の削減を求める

### ◆ 取引データの報告制度

- 不公正取引の防止や決済リスク管理の強化を図るため、日々の取引データについて、金融先物取引業協会及び当局に報告

### ◆ その他の施策

- ロスカット取引に係る監視間隔の短縮
- 未カバーポジションの情報開示 等

※ 全般的な証拠金率の引上げ(レバレッジ倍率の引下げ)について、自己資本・ストレステストの拡充の効果を評価した上で、必要な場合、再度検討